

別 紙

第53回 静岡県公衆衛生研究会 優秀演題ホームページ掲載要旨

分 科 会 名	第 1 分科会	演題番号	1 2 1
題 名	静岡県の日本紅斑熱症例と媒介マダニの分布について		
所 属	環境衛生科学研究所		
氏 名	池ヶ谷朝香、原稔美、酒井悠希子、阿部冬樹、佐原啓二		
要 旨 (簡 潔 に)	<p>日本紅斑熱の病原体である <i>Rickettsia japonica</i> は、複数種のマダニから検出報告があるが、九州や中国地方ではヤマアラシチマダニが <i>R. japonica</i> の媒介種として注目されている。2008年以降、当所のマダニの調査でヤマアラシチマダニが採取されたのは湖西市と沼津市の「沼津アルプス」近辺であった。しかし、2015年に熱海市及び伊東市でもこのマダニが採取された。</p> <p>静岡県では2000年から2016年5月までに5症例の日本紅斑熱患者が報告されているが、発生地域は「沼津アルプス」近辺の沼津市及び伊豆の国市のみであった。しかし、2016年11月に伊東市で初めての患者が発生したことから、ヤマアラシチマダニとの関連性が疑われる。</p> <p>日本紅斑熱は同一地域で繰り返し患者が発生する傾向にあるため、「沼津アルプス」近辺や伊東市では今後も患者が発生することが予想される。しかし、採取したマダニのうち <i>R. japonica</i> が検出されたことのある種類のマダニは、県内に生息するマダニの約8割であることから、他の地域でも患者が発生する可能性がある。</p>		